

東大EMP第22期プログラム 最終報告発表 概要

(2020年3月7日)

| チーム・メンバー | 課題テーマ | タイトル | 概要 |
|---|--|--|---|
| <p>[チーム 1] 池田 一郎 杉山 宗志 蘇畑 康生 豊川 隆 福永 悟郎</p> | <p>健康的で活力のある 超高齢化社会経営</p> | <p>高齢化時代に対応した 三世代 型コミュニティの創生</p> | <p>多様な生き方を無理なく受け入れ、幼児から高齢者までが垣根なく交流し、充実した人生を送る社会を実現するための提案をする。今後の日本社会では高齢化率が高位に留まると見込まれ、社会システムの転換が必須である。大規模な都市開発による新しいシステムが成功した事例はあるが、既存の生活が残る地域でも適用できなければならない。地域にある既存の遊休資源を、コミュニティ通貨等を利用しながら活かし、新たな社会システムを構築していく。</p> |
| <p>[チーム 2] 伊藤 嘉盛 鈴木 克典 田中 久嗣 中西 雅通</p> | <p>資源・エネルギー活用 の規律による環境保 全</p> | <p>欲望がつき動かすエネルギー革 新</p> | <p>CO2増加による地球温暖化が顕在化する中、再生可能エネルギーへの変換は急務である。一方で先進国をはじめ既存電力インフラの整備された社会では、エネルギー変換に膨大なスイッチングコストを要する為、社会規範や規律に訴える現状の施策からは有効なエネルギー変換シナリオを打ち出せていないのが現状である。 当チームでは、資本主義社会の発展の源泉となった人類の欲望に再注目することで、これを原動力とするエネルギー変換の枠組みを提案する。</p> |
| <p>[チーム 3] 塚本 晃浩 柏倉 秀亮 北浦 太郎 島田 和幸</p> | <p>経済・金融分野の貢 献と影響力の制御</p> | <p>日本の未来に投資しよう！ ～子どもMiraiファンド～</p> | <p>少子化・高齢化社会において、若い世代は日々の生活や子育ての負担に、シニア世代は将来の不安に苦しんでいる。しかし、人口が低位安定していく中で、潤沢な金融資産がシニア世代に残されている今の状況は、社会を改革するためのチャンスとも評価しうる。 我々は、ファンドの仕組みを利用して、シニア世代の金融資産を子どもの未来に投資させるとともに、若い世代とシニア世代の利害の一致をはかることによって、皆が手を取り合って楽しい子育て・安心な生活ができる社会を作ることを提案する。</p> |
| <p>[チーム 4] 川平 泰史 徳重 浩介 橋本 和宏 松尾 久美子</p> | <p>多様な宗教、文化、政 治を前提とした共通 行動規範確立</p> | <p>分断の本質 —MAJORITYの鈍感さと、 minorityの被害者意識—</p> | <p>世代間、政府・市民間、国家間など世界には様々な分断があるが、その分断を乗り越えるための共通規範を提案する。分断の態様は様々だが、その本質は「MAJORITY」と「minority」の対立であり、その際に鍵となる概念が「拗れ」である。よって「拗れ」をほどいていくための規範を本発表の主要なメッセージとする。また、EMP参加者の多くがMAJORITYであることを踏まえ、MAJORITYから歩み寄ることを提案する。</p> |

| | | | |
|--|--|-------------------------------------|---|
| <p>[チーム 5] 桐生 崇 黒田 康平 中林 大典 花房 能章 林 賢太郎</p> | <p>先端科学・技術の効 用前提での新世界観 の形成</p> | <p>先端テクノロジーによる「幸福 活動時間」の最大化</p> | <p>医療分野をはじめとした先端テクノロジーの進展により、人間の平均寿命は着実に延伸している。では、寿命が延びることは人間にとって本当に幸せなのだろうか。つまりテクノロジーの進展により人間は幸せになっているのだろうか。 我々チーム5は、テクノロジーのみでは解決できない社会課題について、「共生」と「未来志向」をコンセプトにした社会システムを提案する。</p> |
|--|--|-------------------------------------|---|